

DNCommunication

第18期 中間株主通信 | 2024年4月1日から2024年9月30日まで



Calm

～人とくるま、そして地球を“心地よく”繋げる～

画期的な提案ができる企業を目指し、 社会課題を解決する価値創造を進めてまいります。

代表取締役社長

杉山 郁男



平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第18期 中間株主通信をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

中期経営計画の進捗状況について お聞かせください。

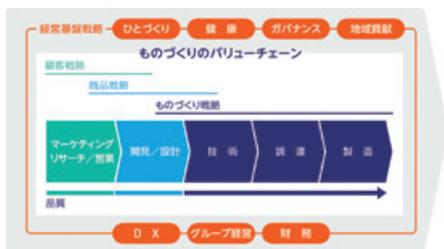
このたび新たに長期ビジョンを策定し、「Vision 2040」で当社グループが「見たい景色」を描きました。4年毎の中期経営計画で段階的に成長し、2040年度での実現を目指します。今年4月にスタートした新中期経営計画は、2027年度を最終年度として、「基盤の構築」の4年間と位置付けています。当社のバリューチェーンと連携させた顧客戦略、商品戦略、ものづくり戦略、経営基盤戦略の4つの経営戦略を柱として推進中です。

「顧客戦略」では、樹脂による新たな市場開拓と、グループ全体の営業機能の強化に向け、現在DNマーケティングシステム*1の構築を行っています。

「商品戦略」では、樹脂の循環サイクルの実現に向けた商品開発や、システムクリエイター*2としてOEMに新たな価値提案を進めています。今号の特集で取組みの事例を紹介しています。

「ものづくり戦略」では、バリューチェーン全体での高効率化や品質向上への取組みを加速させ、スマートファクトリー実現に向けた準備を進めています。また、製造工程におけるCO₂削減や環境に配慮した樹脂材での生産、ロボットを活用した自動化なども確実に進めています。

「経営基盤戦略」は、上記3つの戦略を支える戦略であり、注力する7つのテーマを定めています。



DXの推進やタレントマネジメントの実践、人的資本経営に向けた社員の健康維持/促進への取り組み等、計画どおり着実に進行中です。さらに、東京証券取引所からの要請でもある「資本コストと株価を意識した経営」にも取り組んでおり、グループ全体で最適な資金管理ができるキャッシュマネジメントシステムの活用や、戦略的投資計画の策定などを予定しています。

これからもステークホルダーの皆さまとの丁寧な対話に一層努めるとともに、情報開示をさらに充実させることで当社の取組みをより深くご理解いただき、より良い企業経営に繋げてまいります。

*1 DNマーケティングシステム…各本部が持つ知見や情報を共有してベストな価値提供を行うことで、受注獲得に繋げる。
*2 システムクリエイター…これまでの部品開発から、モジュール/システム開発へ進化させ、商品価値機能をパッケージとして企画提案・開発が行えるイノベーション企業。

中間期の総括と、 通期の見通しをお聞かせください。

当中間連結会計期間(2024年4月1日～2024年9月30日)の業績については、売上高は米国での顧客生産台数の増加や邦貨換算影響等により、前年同期比で増収となりました。利益については、増産による影響に加え、コスト改善活動の実施、急激な生産変動に対する補償等もあり、前年同期比で増益となりました。

通期の見通しについては、主要顧客における直近の生産動向を踏まえ、下期の生産数の前提を見直し、2024年8月8日に公表した業績予想を修正しました。

	2025年3月期			2024年3月期 【ご参考】実績
	2024年5月14日公表予想	2024年8月8日公表予想	2024年11月7日公表予想	
売上高	百万円 169,000	百万円 169,000	百万円 166,900	百万円 159,019
営業利益	9,500	10,700	9,700	8,690
経常利益	8,500	10,200	8,600	8,775
親会社株主に帰属する当期純利益	6,000	7,000	5,700	5,782
1株当たり当期純利益	円 銭 84.38	円 銭 98.41	円 銭 80.13	円 銭 81.34

厳しい状況下ではありますが、強固な経営基盤の構築に努め、収益の最大化を図ってまいります。

なお、配当は2024年5月14日に公表した予想に変更はなく、1株につき年間34円を予定しています。

株主の皆さまにメッセージを お願いします。

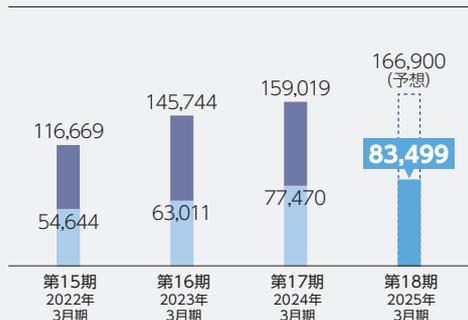
社長に就任して以来、これまでに培ってきたものづくりに関する技術、知識、経験などを最大限に活かし、自動車樹脂部品事業をとおして「人・社会・地球を大切に作る企業」であり続けたいということを発信してきました。樹脂分野における循環型社会の実現により、地球と社会に貢献していきたいと考えています。

樹脂には多くの可能性があり、樹脂製品が提案すべきことはこれからもっと増えていきます。一般論や常識にとらわれず、お客さまのニーズの一步先を行く画期的な提案ができる企業を目指し、社会課題を解決する価値創造を進めてまいります。

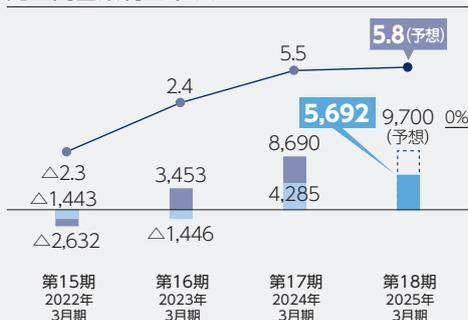
株主の皆さまにおかれましては、今後とも倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

連結財務ハイライト

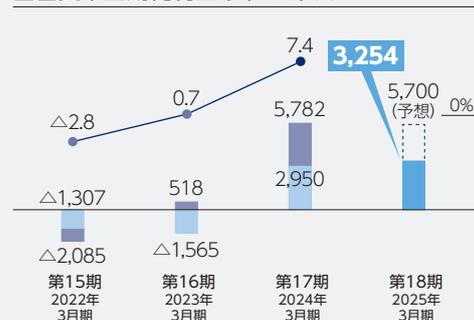
売上高 (百万円) ■ 中間期 ■ 通期



営業利益 (百万円) ■ 中間期 ■ 通期
売上高営業利益率 (%) ●



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益 (百万円) ■ 中間期 ■ 通期
自己資本当期純利益率 (ROE) (%) ●



当中間連結会計期間の業績の詳細については、こちらをご覧ください。

● 決算説明資料

<https://www.daikyonishikawa.co.jp/ir/library/results-briefing.html>



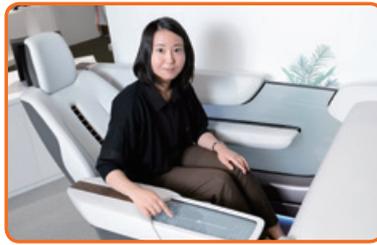
“システムクリエイター”としての 地位を確立し、新たな価値を 提供できる企業を目指して



当社は、2040年度の目指す姿「Vision 2040」の実現に向け、特に重要視して取り組んでいく12の課題(マテリアリティ)を設定しました。2024年度からスタートした中期経営計画では、マテリアリティ解決のための戦略を立て、施策を推進しています。今回は、商品戦略の施策の一つ「システムクリエイターとして新たな価値の提供」から、自動運転の普及が想定される2035年をターゲットに当社が開発したインテリア空間コンセプトモデル(以下、C2035*1)を、クリエイターたちの想いとともにご紹介します。

コンセプトは「Calm」

～人とくるま、そして地球を“心地よく”繋げる～
当社の企業理念にある「人・社会・地球を大切にすることを実現」に向け、次世代のものづくりはどうあるべきかを考えるところから本開発はスタートしました。インテリアを空間全体でとらえて人とくるまを“心地よく”繋げ、新しい価値を提供する。さらに、既存にとられない斬新な発想による材料、工法、構造で環境への負荷低減に挑み、地球にも“心地よい”ものづくりがしたいという思いを込めて、コンセプトは“穏やか”“心地よい”という意味の「Calm」に設定しました。



心地よい空間の在り方をトータルでプロデュース ～ミニマルの美学～

自動運転が当たり前になれば、くるまのリビング化が進むと考えられます。当社は主に自動車の樹脂部品を提供していますが、居住空間として“心地よい”インテリアを提案するためには、部品単位の考え方から脱却し、空間全体視点で開発を進める必要があると考えました。シンプルで、ミニマル。すなわち「最小限にすること」を意識しつつ、機能的で快適な空間を構成しました。



至るところに散りばめられた “心地よさ”追求のこだわり

一見シンプルなデザインに見えますが、随所にこだわりを織り込んでいます。例えば、インストルメントパネル上部には、ウィンドウへの映り込み低減を目的に独自開発した反射低減テクスチャー*3を採用し、クリアな運転視界を提供しています。また、ステアリングのグリップ部分には開発した高触感テクスチャーを採用し、触感の“心地よさ”にもこだわっています。



*1 C2035…「C」はConcept、「2035」はターゲットとした年を表している。
*2 ユーザーインターフェース…利用者がシステムの操作や入力等を行う手段や方式。
*3 テクスチャー…凹凸等を持った表面の様子などを指す。
*4 コンソール…運転席と助手席の間に設置された箱型の部品。
*5 アップサイクル…捨てられるはずだった廃棄物や不用品に手を加え、付加価値を与えること。

必要な時だけ必要な情報が現れる

空間全体をミニマルにすることと併せて、ユーザーインターフェース*2も最小限にしています。必要な時だけその時々に必要な情報を“心地よく”伝えることができれば、安心感や安全、健康にも繋がると考えました。当社の光透過技術を駆使するなどして、情報をシンプルでわかりやすく、そして煩わしくないように伝えるための工夫を凝らしています。



感性に訴える価値開発

五感に訴える価値の一つとして“香り”に着目し、機能性オリジナルアロマの開発にも取り組んでいます。香りでも“心地よさ”を感じられるよう、コンソール*4にアロマディフューザー(芳香拡散器)を搭載し、暑い時にはミントを調合したクールな香りなどで体感温度を下げ、空調の設定温度を下げなくても快適に過ごすことができます。



「地産地消」でサステナビリティ実現に挑戦

環境負荷低減を目的に、アップサイクル*5製品の開発に取り組んでいます。具体的には、広島県で発生する廃棄物牡蠣殻を活用した樹脂や合成皮革の開発を進めています。材料開発にあたっては、地場の牡蠣殻処理メーカーとの協業で取り組んでいます。

● 当社ホームページで「C2035」の動画を公開しています。

<https://www.daikyonishikawa.co.jp/technology/development/case/01.html>



● 中期経営計画の詳細については、こちらをご覧ください。

<https://www.daikyonishikawa.co.jp/ir/management/plan.html>



INFORMATION

「DNCLレポート2024」を発行しました



当社は、「DNCLレポート2024」を発行しました。本レポートは、主に持続可能な社会の実現に向けた当社グループの活動について発信するものであり、「開かれた企業」として社会とコミュニケーションをとるための重要なツールとして位置づけています。

ホームページにて本レポートを公開するとともに、今後の事業活動及びより良いレポートづくりに活かすべくアンケートも行っています。皆さまからのご意見ご感想をお寄せいただけますと幸いです。

●「DNCLレポート2024」

https://www.daikyonishikawa.co.jp/ir/library/corporate_reports.html



●アンケートはこちら

https://www.daikyonishikawa.co.jp/ir/library/corporate_reports/questionnaire.html



株主還元の基本方針

当社は持続的な成長を可能とする収益力の強化とグローバル企業としての成長基盤を築き、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆さまへの利益還元につきましては、経営の重要課題と位置づけており、将来の企業価値を高める事業戦略のために必要な内部留保を確保しつつ、連結配当性向30%程度を目安とし、連結純資産配当率(DOE)2.5%以上を目標に安定的・継続的な配当を行うことを基本とし、業績、配当性向などを総合的に勘案していきたいと考えております。

1株当たり配当金・配当性向



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
剰余金の配当の基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同 事 務 取 扱 場 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777(平日9:00～17:00)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
公告掲載方法	電子公告 https://www.daikyonishikawa.co.jp/ 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

会社概要

(2024年9月30日現在)

社 名	ダイキョーニシカワ株式会社
本 社	広島県東広島市寺家産業団地5番1号
設 立	2007年4月1日
資 本 金	54億2,665万3,900円
従 業 員 数	5,779名(連結)

IRメールマガジン配信中

メールアドレスをご登録いただいた方に、最新のIR情報をメールでお知らせしています。

メールアドレスをお持ちの方ならどなたでも無料でご登録いただけますので、ぜひご利用ください。

詳しくはこちら

<https://www.daikyonishikawa.co.jp/ir/mail/>

※IRメール配信登録の前に、必ず【メール配信に関する注意事項】をお読みください。



アンケート実施中

当社では、皆さまに信頼され共感していただける企業を目指してIR活動を行っております。

皆さまとのコミュニケーションを一層深め、IR活動の向上に繋げるべく、このたび当社IRサイトにアンケートを設けました。ぜひご協力いただき、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。

詳しくはこちら

<https://www.daikyonishikawa.co.jp/ir/questionnaire.html>



株主通信バックナンバーをご覧いただけます

株主の皆さまに、私たちの事業活動や取り組みを知っていただきたいという思いから、年に2回、株主通信を発行しています。



●バックナンバーはこちら

<https://www.daikyonishikawa.co.jp/ir/library/business-reports.html>



ダイキョーニシカワ株式会社
TEL: 082-493-5610

